



人と街をつなぐモノレール



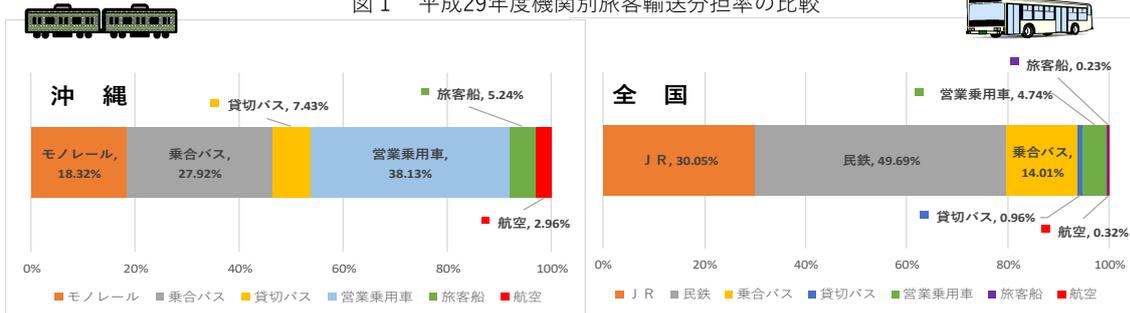
はいた〜い。残暑お見舞い申し上げます。

8月10日は何の日かご存知でしょうか。実は道路の意義・重要性について関心を持ってもらうために制定された『道の日』です。かつて、沖縄県にも軽便鉄道と沖縄電気軌道（ちんちん電車）という軌道交通がありましたが、沖縄戦で破壊され、平成15年8月10日『道の日』に沖縄県の軌道交通が都市モノレールというかたちでよみがえりました。

今月は、モノレールについて、調べてみました。はじめに平成29年度機関別旅客輸送分担率について、全国と沖縄を比較してみましょう。（図1）全国では全旅客輸送のうち約80%を鉄軌道で分担していますが、沖縄県は鉄道がないため、陸上交通のほとんどが乗合バス、貸切バス、営業乗用車が分担しており、モノレールの割合は18.32%にとどまっています。



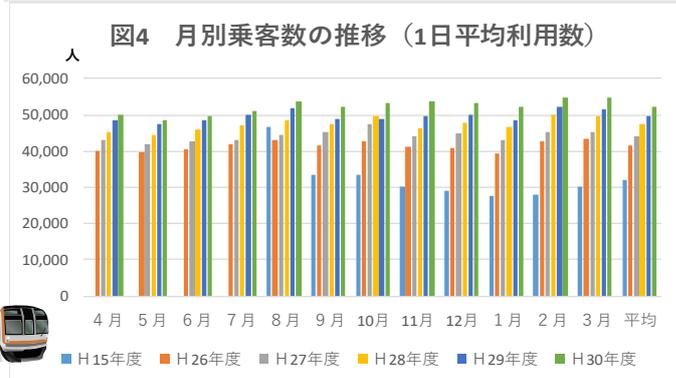
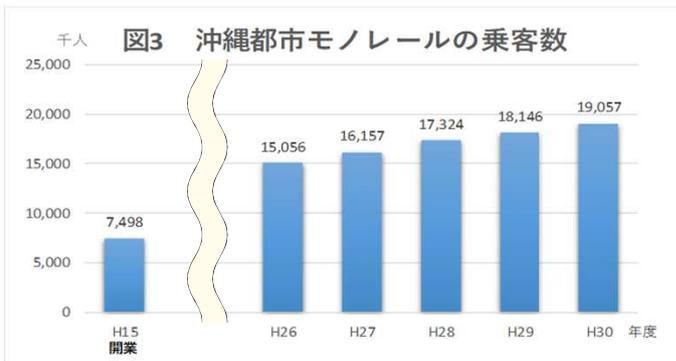
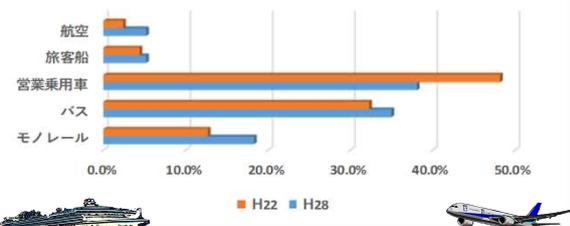
図1 平成29年度機関別旅客輸送分担率の比較



次に、県内における平成22年と平成28年の機関別旅客輸送分担率の比較を見てみましょう。（図2）

営業乗用車の分担率が約10%低下し、モノレール、バス、旅客船、航空の分担率がそれぞれ、増加しています。沖縄県内の営業乗用車およびバスの分担率が高いことから、旅客輸送交通は自動車に依存していることがわかります。

図2 機関別旅客輸送分担率の比較



最後に、沖縄都市モノレールの開業年度（平成15年度）と直近5年間の乗客数と月別乗客数の推移をみてみましょう。（図3）（図4）

平成15年度の乗客数は7,498千人、平成30年度は19,057千人となっており、開業当初より約2.5倍増加しています。また、月別乗客数について、開業当初と平成30年度の各月を比較してもすべての月で増加していることがわかります。モノレールの利用者が増える傾向にある中、平成29年10月には乗客数が2億人を突破しました。

さらに、令和元年10月には、首里駅（那覇市首里汀良町）からてだこ浦西駅（浦添市前田）までの延長区間が開業する予定となっており、沖縄自動車道との接続など利用客の利便性が高まります。

沖縄都市モノレール沿線には、学校、病院、公園等の公共施設があり、県民の日常生活の安全・安心な移動手段としても定着しています。また、観光施設、商業施設が整備されるなどそれぞれの地域で特性を活かしたまちづくりが進んでいます。

休日にモノレールに乗車して、街並みを眺めたり、駅周辺を散策したり旅行気分を味わうのもいいですね。

(資料) 図1 南部土木事務所「事業概要2018」、 図2 道路管理課「沖縄県緊急輸送道路ネットワーク計画」、 図3~図4 都市計画・モノレール課「沖縄県HP乗客数の推移」より